

ベシケア発売1周年記念講演会

謹啓 夏至の候、先生におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、下記にてベシケア発売1周年記念講演会を開催致します。

ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

日時：平成19年6月21日(木) 18:45～

会場：秋田キャッスルホテル 4階 矢留の間

秋田市中通 7-2-1 TEL 018-831-2225

【製品紹介】

過活動膀胱治療剤 『ベシケア』

アステラス製薬(株) 学術室

【講演】

座長 秋田赤十字病院 副院長 三浦 邦夫 先生

『実地医家のための過活動膀胱(OAB)診療のコツ』

秋田泌尿器科クリニック 院長 能登 宏光 先生

『ベシケアの使用経験』

市立秋田総合病院 外科診療部長 松尾 重樹 先生

【特別講演】

座長 秋田大学医学部 生殖発達医学講座 泌尿器科学分野

教授 羽淵 友則 先生

『排尿症状の自然史』

札幌医科大学医学部 泌尿器科講座 准教授 舛森 直哉 先生

会終了後、情報交換会を予定しております。

当会は日本医師会生涯教育講座(3単位)に認定されております。

主催 アステラス製薬(株)

高齢化と前立腺肥大症

舛森直哉、福多史昌、塚本泰司

札幌医大泌尿器科

前立腺肥大症は高齢男子のほとんどの認められる生理的な組織学的変化である。加齢とアンドロゲンの二つが確定的な危険因子であり、細胞増殖が細胞死を上回ることで発症するが、その病因は必ずしも明らかではない。LUTS/BPHは、前立腺容積、下部尿路閉塞および下部尿路症状において様々な所見を有する不均一な集団であるが、典型的には腺腫の増大により下部尿路閉塞が起こり下部尿路症状が出現する。したがって、前立腺容積は症状・所見の発現・増悪を決定する根幹となる重要なパラメーターである。

腺腫の発生・進展の自然史はいまだに明確ではない。これまでの剖検例での検討および横断的検討によると、集団全体としてみれば前立腺は進行性に増大するが、個人のレベルでは萎縮から増大までの様々な自然史を辿ることが示されている。また、臨床研究や欧米における縦断的検討から、ある一時点で大きな前立腺は将来的にさらに大きくなる可能性も推測されている。北海道で行った15年間にわたる縦断的community-based studyも同様な可能性を示唆する結果であった。

LUTS/BPHの治療法は薬物療法と手術療法に大別される。繰り返す尿閉や腎後性腎不全などの手術の絶対的適応を除き、通常は薬物療法が選択される。 $\alpha 1$ ブロッカーは前立腺容積にかかわらず下部尿路症状を速やかに改善するが、尿閉の発症や手術療法への移行は抑制できない。これらの抑制は 5α 還元酵素阻害剤などによる前立腺容積の縮小により可能となり、前立腺容積が大きな症例ほどベネフィットが大きい。LUTS/BPHの治療の基本は患者の有する下部尿路症状、苦痛およびQOL障害の改善であるが、前立腺容積の大きな症例に対しては自覚症状が軽度であっても疾患の進展・増悪の予防を目的とした薬物療法も考慮する時代が到来するかもしれない。いずれにしてもLUTS/BPHの自然史の知見の集積がさらに必要である。